

児童・生徒の現状・課題

- 前向き、意欲的に学習に取り組む児童が多い。
- 「知・技」一定の定着が見られるが、習得した知識を日常生活や現実の事象と関連づけて理解することが難しい。また、「思・判・表」では、児童が具体的な問いを見出し、目的に応じた課題解決、考えの根拠を明確にすることが難しい。

**学び続ける力を育むための重点目標**

- 自分の考えをもち、行動できる子
- 他者との関わりの中で、学びを得ることができる子
- 学習内容や学習過程を振り返り、前向きに次の学習に取り組める子

**具体的な手だて①**

授業の最初に「学びの地図」を提示し、学習内容や学習計画の見通しをもたせる。

具体的な手だて②

個別最適な学習を進めるために思考ツールの1つである「マトリックス」を活用し、児童が自ら目標を設定したり、学習方法を選択したりしながら学び続けられるようにする。

具体的な手だて③

学習意欲を高めるために1単位時間の中で児童の興味・関心を高め、探究したいという意欲(わくわくポイント)を、町田市教育プランの授業をデザインする8つの取組から仕掛けていく。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(4月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	84	82.7	
②学習のゴールを見通しながら学習に取り組んでいる。	83.4	87.6	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(4月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。		92	
②学習をしてもできるようにならないときは、どうすればよいか、見通しをもたせている。		72	

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・管理職の授業観察の際は、指導案を教員にも配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。指導案を作成する際は、授業づくりの視点(町田市教育プランより)を6つの選択肢から仕掛けるようにする。
- ・児童にとって、次の日の学校生活がより前向きになってほしいという願いから、下校のあいさつを「さようなら」から「また明日」に変更した。

総括(5月)

教科領域等横断的にゴールを見通しながら取り組んできたことから、児童が「できた。」と感じる場面が増えた一方で、否定的な回答も一定数見られるため、その児童たちへの手立て、環境づくりを意識して教員たちがしっかり準備していく必要がある。

総括(1月)